

「建設業は地域の守り手」

仙台市の土木建設業、深松組の深松 努社長(58)が、地方建設業の進むべき 道を考察した「地域再生と社会創造」 を出版した。東日本大震災の津波被災 地で、いち早く救難路を開いたのが各 地の建設業者だった事例を踏まえ「建 設業は地域の守り手。その役割を担い 続けるためにも自ら地域課題の解決に 挑む必要がある」と訴える。

公共事業が減り、淘汰が進むとの危機感から、持論の「建設業者を準公務員扱にするアイデア」を披露。津波被災地に大型複合施設「アクア イグニス仙台」(若林区)を開いた経緯を詳述し、「一人の

仙台・深松組社長が本出版



初の著書を出版した深松組の深松社長

復興や課題解決に貢献

集まる場をつくり、民間需要を喚起する企業活動にシフトすることが、これからの地方建設業が生きる道」と説いた。

28棟を保有するマンション賃貸や沖縄県宮古島で展開するリゾートホテルなど事業の多角化にも触れて、地域と共生する企業姿勢を強調。今年6月に創業の地、富山県朝日町に建設した小水力発電所が、売電収入で過疎集落の水道施設更新を支えるユニークな取り組みであることも紹介した。

同社は2025年に創業100周年を迎える。深松社長は「節目を前に、自分が社長を継いで15年の歩みを振り返りつつ、震災の教訓を多くの人に知ってもらいたいと筆を執った。全国の建設業が苦境を乗り越え、共に成長する一助になればうれしい」と話す。

四六判198頁。サブタイトルは「未来をつくる地方建設業の使命」。出版社は幻冬舎で1760円。